登録室リレー随筆

新潟県地域がん登録室　梨本 篤

登録データを最大限利用していただき、幅広くがん医療へ貢献していきたい

本年、新潟県がん登録室の開設以来、登録に関わってこられた小越和栄先生が日本対がん協会賞を受賞されました。お慶び申し上げますとともに日本対がん協会には心より感謝申し上げます。臨床業績のみならず永年地域がん登録に尽力されるとともに、新潟市の内視鏡検診の開発および地域がん登録データを利用しての高度な精度管理などが評価されたものと思われます。小越先生に今日までを振り返っていただきました。

「新潟県地域がん登録は平成3年4月に開設されました。全国的にも優れた院内疾病登録システムを設立された新潟県立がんセンター新潟病院初代病歴室長、藤野臻策先生の永年のご努力による賜でした。開設に際しては、地域がん登録のパイオニアである宮城県がん登録からのご助言や大阪府立成人病センター藤本伊三郎先生の多大な御指導を仰ぎながらシステムを作り上げ、当院の一室を借りて（病院とはシステム上別組織）業務を開始致しました。新潟市に近い地域では新潟県病歴懇話会の協力もあり開始直後から登録率は良好でした。しかし、新潟市から離れた地区での登録率は今一歩で、届出のお願いに病院へ足を運びましたが、DCO率はなかなか20%を切れませんでした。平成17年になり漸く20%を割ってからは一気に低下し、現在は5%以下の良好な登録状況を維持しています。嬉しい思い出は、平成12年11月タイのコーンケーンで開催された第22回International Association of Cancer Registries (IACR)に初めて出席し、「検診発見癌の臨床像」がPoster Award（一般発表はポスターのみ）を受けたことです。」

と述べておられました。

当がん登録の目標は登録データを最大限利用していただくことですが、平成24年までに169回の新規利用申請があり、がん検診の精度管理や疫学研究に大いに利用されております。私どもは単に精度の高い地域がん登録を行うのみならず、それらのデータを活用して疫学のみならず臨床も含め、幅広くがん医療への貢献ができることを願っております。